

ぽかぽか陽気

特集

- ①日本医療機能評価機構 認定取得のご報告
- ②自分のタイプに合わせた腰痛体操を始めましょう



日本医療機能評価機構



認定取得 (5期連続) のご報告

— 当院の「医療の質」と「安全性」が認められました

◆ 病院機能評価とは

日本医療機能評価機構は、病院の医療の質や安全性を第三者の立場から客観的に評価・認定する公益財団法人です。

評価を行う項目は「患者さんの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」や「実際に医療を提供するプロセス」「病院全体の管理・運営体制」など、約90項目。書面審査と訪問審査を経て、厳格な基準を満たした病院だけが「認定病院」として認められます。

当院は、2005年の初回認定から5期にわたって継続して認定を受けています（1期は5年）。長年にわたり、質の高い医療を提供し続けてきた証です。



◆ 特に高く評価された項目（S評価）について

「救急医療機能を適切に発揮している」

「24時間365日、救急搬送を断らない方針」のもと、専門性のある疾患に対するコンサルテーション体制の整備、各種ホットラインの常設、救急隊との継続的な連携強化への取り組みなどが評価されました。

「職員にとって魅力ある職場となるよう努めている」

職員からの提案で職場環境を改善する「愛デアボックス」、職員の要望を把握する「満足度調査」の実施、職員同士が褒めあう「おみごとプロジェクト」など、魅力的な職場づくりに取り組む姿勢が評価されました。

「職員の能力評価・開発を適切に行っている」

毎年、病院長が医師と面談を行ってプランを作成し、その達成度を評価する仕組みや、看護師を段階的に育成する「クリニカルラダー」制度、等級に応じた職員個別の能力評価の仕組みなどが評価されました。

春はぎっくり腰になりやすい!?

自分のタイプに合わせた腰痛体操を始めましょう

監修・原案・イラスト：東和会いばらき病院 理学療法士 北古賀 俊誠

春は朝晩の寒暖差が大きく、自律神経が乱れて筋肉が緊張しやすくなります。また、生活環境の変化によるストレスや、冬の間の運動不足が重なり、ぎっくり腰を起こしやすい時期です。体操で腰まわりをほぐして、元気な春を過ごしましょう！

(2025年3月7日「市民公開講座」で紹介した体操をまとめました。)

★前かがみで痛い方

- 靴下を履くとき
- 顔を洗うとき
- 草むしりのときに腰が痛む

→ 体の後ろ側をほぐす



★反らすと痛い方

- 洗濯物を干すとき
- 高所に手を伸ばすとき
- 長く歩くときに腰が痛む

→ お腹の力で腰を守る



片足を伸ばしてかかとをつき、背筋をのばしたまま体を前へ



片足を反対のひざにのせ、背筋をのばしたまま体を前に倒す



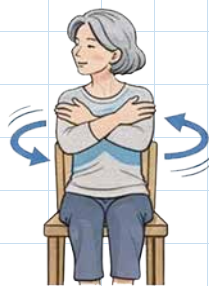
両膝を抱え、背中全体をボールのように丸める



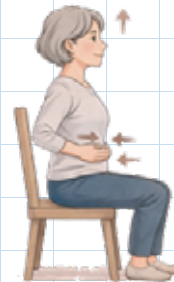
腰とイスの隙間をうめるようにおへその裏を背もたれに押しつける



頭の後ろで手を組み、天井を見上げる



胸の前で手を組み、息を吐きながら左右にねじる



息を吐ききりながら、おへそを背中側に引き込んでおなかを薄くする



片手を下げ、床に近づけるように真横に倒して腰の横を伸ばす

※痛みが強いときは無理に行わず、かかりつけ医・理学療法士にご相談ください。



東和会いばらき病院では、さまざまなテーマでの市民公開講座を茨木市文化・子育て複合施設おにクルの「きたしんホール」(茨木市駅前3丁目)にて開催しています。次回の開催情報はホームページ・広報誌にてお知らせしますので、ぜひご注目ください。

東和会グループ

この人に
注目



第一東和会病院 看護部
入院支援室 安達 奈美さん

入院支援室は、入院が決まった患者さまの「不安」を受け止める場所です。入院自体が初めての方も多く、入院中の生活や手術後がイメージできず、さまざまな不安や疑問を抱えています。入院前に患者さまに寄り添い、不安なく手術に向かっていただく——それが入院支援室の役割です。

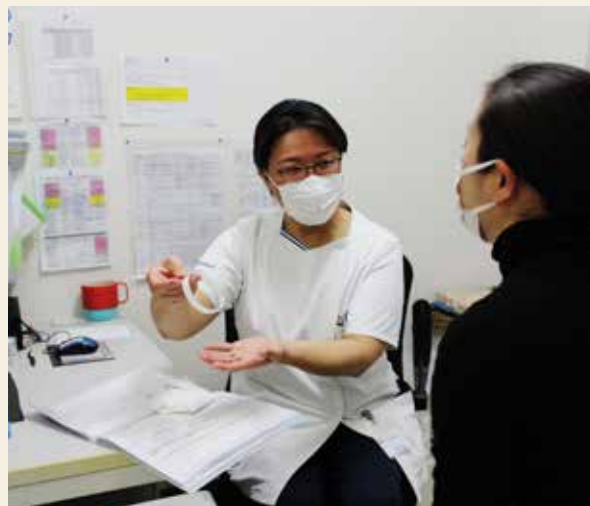
イチから丁寧に寄り添う面談を

「麻酔からちゃんと目が覚めるか」「術後はどれくらい痛いのか」——患者さまが抱える不安はさまざまです。外来で説明を受けていても、手術の前に頭が真っ白になってしまう方も多し。だから安達さんは、入院日時や手術の流れも含めて、イチから丁寧に話すようにしています。

これまでの経験が、ここで生きる

安達さん自身も整形外科の手術を何度か受け、リハビリ転院も経験しています。「手術の大変さ」を知っているからこそ、患者さまの気持ちに自然と寄り添えます。「今は元気に暮らしていますよ」という一言が、どれほど患者さまを安心させるか——それも経験から知っています。

患者さまの話聞くだけではありません。安全な手術のために「手術まで中止すべき薬を服薬していないか」「喘息や心臓の病気はないか（麻酔



に影響することもある)」など確認すべきこともあります。「手術室で働いていた経験が活かしています」と安達さん。集めた情報は病棟スタッフへ引き継がれ、入院当日からのケアにつながります。

「ありがとう」がモチベーション

2024年11月、物置のようになっていた部屋を整理することから入院支援室は出発しました。マニュアルをゼロから作り、誰にどんな情報を伝えるべきか、一つひとつ積み上げていきました。

就学前のお子さま連れの方や、お子さま自身が入院するケースもあります。面談中、お子さまに塗り絵やスタンプで遊んでもらいながら、親御さまから情報収集をする——そんな工夫を重ねる安達さん。モチベーションは、「入院をイメージできて不安がなくなった」「丁寧に接してくれてありがとう」などの患者さまの言葉です。

異動当初は戸惑いもありましたが、実際に始めてみると、そこは看護師としての知識と経験が光り出す仕事でした。



* * *

患者さまの不安に、ひとつひとつ向き合う安達さん。まさにキラリと光る職員のひとりです！

第一東和会病院 新入職医師のご紹介



呼吸器外科

ひがしやま まさひこ

東山 聖彦

1980年 大阪大学卒

これまで、特に呼吸器がんの診療に従事してきました。この領域の検診や診察で地域に貢献したいと思っています。



消化器内科

かどの とおる

角埜 徹

2015年 滋賀医科大学卒

専門は消化器内科、腫瘍内科です。がんに関するお困りごとがあれば何でもご相談ください。



整形外科

おおの ひろあき

大野 博章

2016年 兵庫医科大学卒

1年ぶりに復帰しました。改めてお世話になります。がんばります。



消化器内科

やまだ たつあき

山田 達明

2021年 金沢医科大学卒

本年度より第一東和会病院にお世話になります。山田達明と申します。よろしくお願い申し上げます。



麻酔科

きど みほ

城戸 美穂

2021年 兵庫医科大学卒

至らぬ点が多くご迷惑をおかけしますが、今年1年間よろしくお願いいたします。



整形外科

うえはら ゆうすけ

上原 佑介

2023年 大阪医科薬科大学卒

皆さまに信頼され、安心して受診していただけるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



泌尿器科

ふるさわ ゆうた

古澤 悠太

2023年 徳島大学卒

患者さまに寄り添い、安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。



消化器内科

いしぐち まり

石口 真理

2024年 近畿大学卒

至らぬ点もございますが、誠心誠意努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



消化器内科

やまかわ かずゆき

山川 和之

2024年 大阪医科薬科大学卒

まだまだ勉強中の身ですが、日々努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



消化器外科

ますだ れなほ

増田 怜渚萌

2024年 高知大学卒

精一杯努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



茨木市民公開講座

整形外科

3月7日、茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」きたしんホールにて、東和会いばらき病院 院長 末廣慎悟ならびに理学療法士 副主任 北古賀俊誠による市民公開講座を開催しました。テーマは「医師・理学療法士による腰痛のお話・体操」です。

講座の前半は、安静時も痛む場合は注意が必要であること、動作時の痛みにはストレッチが有効であることなどを末廣が説明。後半には、日常生活で実践できる腰痛予防体操を北古賀が実演しました。



末廣医師



北古賀主任

高槻市民公開講座

脳神経外科

3月28日、高槻市立生涯学習センター多目的ホールにて、第一東和会病院の脳神経外科 医師 片山義英による市民公開講座を開催しました。テーマは「脳梗塞・脳動脈瘤・認知症からあなたを守る～MRIで隠れた脳の異変を早期発見！～」です。当日は開場前から多くの方が来館し、10時の開演前には定員約300席が満席に。

講演では、無症候性の脳梗塞、命にかかわる脳動脈瘤、そして認知症の初期変化といった病変を早期発見する方法等が解説されました。特に認知症については、直前の出来事を丸ごと忘れてたり、MRIで海馬の萎縮が見られたりする段階での早期対策が重要であると語られました。参加者からは「脳ドックの大切さが分かりました。健診を受けます！」といった感想が寄せられました。



片山医師

島本町出張講座

女性
泌尿器科

2月28日、「島本町ふれあいセンター」にて出張講座「知って安心、試して納得！ 女性のための尿漏れ・骨盤ケア教室」を開催しました。前半は、第一東和会病院 女性泌尿器科 医師 鎌田知子が、尿漏れ・繰り返す膀胱炎・外陰部痛などの原因と対処法について解説。後半は、理学療法士 保科 章子が骨盤底筋体操を実演しました。

老人福祉センター 出張講座

眼科

3月30日、「春日すこやかテラス」にて出張講座「年齢とともに気をつけたい目の病気～白内障・緑内障を正しく知る～」を開催しました。

第一東和会病院 眼科 医師 山本有貴が、上記疾患の発症機序の違い、治療の考え方、そして視機能を長期的に維持するために重要なポイントを整理して解説しました。

第1回 医療・介護連携の会「かけはしネット」開催

4月11日、高槻城公園芸術文化劇場・北館・文化ホール展示室にて、第1回 医療・介護連携の会「かけはしネット」を開催しました。本会は「シームレスな関係構築を目指して」をテーマに掲げており、高槻市・島本町の介護施設従事者および東和会グループ職員、約100名が参加しました。

第一部では、社会医療法人東和会 理事長 大西恭子の挨拶に続き、「介護施設と医療機関が情報を共有することで、迅速に連携できる体制の構築」という本会の開催趣旨・目的を、第一・第二東和会病院 事務長 上田拓よりお伝えしました。

続いて、第一東和会病院 副看護部長 三宅達司より、施設入所者の緊急受診時も、医療情報の共有・活用により、適切な医療提供と施設の負担軽減が可能になることをお伝えしました。

第二部では、参加者と東和会グループ職員との懇親の場を設け、日常業務における連携の課題や工夫について意見交換が行われ、医療・介護連携の強化につながる有意義な場となりました。

本取り組みを通じ、急変時の搬送や患者紹介において、地域の先生方が、より円滑かつ安心してご相談いただける体制づくりを進めて参ります。



フランス料理店 店主 加藤さんと東和会 ～12年続く関わり～

高槻市内でフランス料理店を営む加藤毅さんが脳梗塞で倒れたのは、12年前のこと。第一東和会病院に搬送され治療を受けた後、左側に麻痺が残り、下肢はほとんど動かない状態となりました。「なかなか現実を受け止められなかった」と加藤さん。

それでも、小さな娘さんが二人いたこともあり、日々のリハビリに向き合ったそうです。現在もお店の厨房に立ち、店を切り盛りする姿からは、そうした経過を感じさせません。

当時を知り、現在も交流のある土井統括看護部副部長は「リハビリは決して楽ではありませんでした。でも、加藤さんの前向きな姿勢が印象に残っています」と振り返ります。「人に恵まれてきました」加藤さんはそう語ります。

入院中の誕生日に職員から贈られたバースデーカード。そのカードは今もお店に飾られています。





市民公開講座のご案内

参加費
無料
先着270名

お腹のがんを正しく知ろう ～怖がらないで上手につきあうために～

「がんは怖い」と思い込んでいませんか？

本講座では、胃や大腸、肝臓・胆のう・膵臓といった「お腹のがん（消化器がん）」について、消化器外科の最前線に立つ医師が分かりやすく解説します。

がんにならないための「予防」と、もしものときに命を守る「検診」の重要性。続いて、現在もっとも効果的とされている「標準治療」の実際から、今後期待される医療の姿までを展望します。正しく知ることによって、不安を安心に変え、健やかな毎日を目指しましょう。

日時 2026年5月23日（土）10:00～11:30

場所 高槻市立生涯学習センター
（多目的ホール）

講師 第一東和会病院 消化器外科 松本 直基 医師



※講演のタイトルは変更になる可能性があります。

社会医療法人 東和会 理念

私たちは「愛」と「和」の精神を大切にします。
そして患者さまの人権を尊重し、
「地域の皆さまに信頼され、愛される病院」を目指します。



診療統計 月平均

2026年1月～2026年3月	
新入院患者数	633.7
1日平均入院患者数	222.4
病床利用率	91.5
平均在院日数	10.6
1日平均外来患者数	664.7
救急搬送受入患者数	378.0
手術件数	377.3
全身麻酔件数	255.0
紹介件数	943.6
外来紹介患者件数	717.0
入院紹介患者件数	307.0
地域支援病院 逆紹介件数	519.0
地域支援病院 紹介件数	605.0



地域に愛される医療をめざして...
東和会グループ
<https://towakai-med.or.jp/>

院外広報誌 ぽかぽか陽気 2026年度 春号

発行月 / 2026年5月 発行者 / 社会医療法人 東和会
〒569-0081 大阪府高槻市宮野町2番17号
TEL: 072-671-1008 (代) FAX: 072-671-1030